

事業報告書

令和2年度

(第13期事業年度)

自 令和2年4月1日

至 令和3年3月31日

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構

I 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構の概要

1 設立目的

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構は、地方独立行政法人法に基づき、医療の提供、医療に関する調査及び研究等を行うことにより、庄内地域等の医療政策として求められる高度専門医療を提供し、及び当該地域における医療水準の向上を図り、もって住民の健康の維持及び増進に寄与することを目的とする。

2 事業内容

- (1) 医療の提供に関すること。
- (2) 医療に関する調査及び研究に関すること。
- (3) 医療に関する技術者の研修に関すること。
- (4) 医療に関する地域への支援に関すること。
- (5) 災害時における医療救護に関すること。
- (6) 前各号に掲げる業務に附帯する業務に関すること。

3 沿革

平成 20 年 4 月 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構設立

- ・山形県立日本海病院を日本海総合病院として開院
- ・酒田市立酒田病院を日本海総合病院酒田医療センターとして開院

平成 30 年 4 月 酒田市立八幡病院の統合等

- ・酒田市立八幡病院等を統合、日本海八幡クリニック、升田診療所、青沢診療所、松山診療所、地見興屋診療所及び飛島診療所を運営開始
- ・酒田医療センターを日本海酒田リハビリテーション病院に改名

4 設立根拠法

地方独立行政法人法（平成 15 年法律第 118 号）

5 所在地（令和 2 年 4 月 1 日現在）

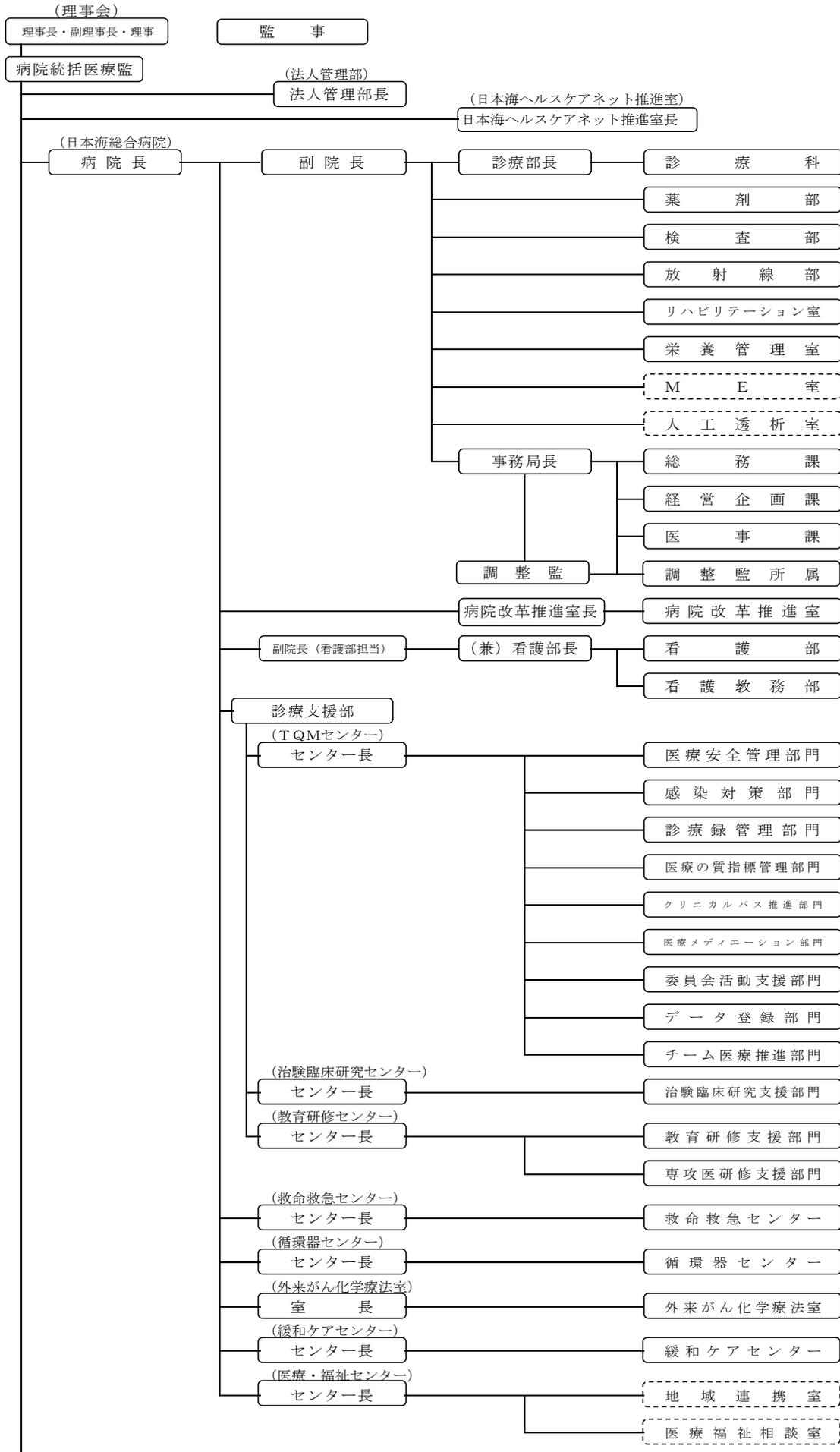
- (1) 法人の主たる事務所 酒田市あきほ町 30 番地
- (2) 設置、運営する病院及び診療所

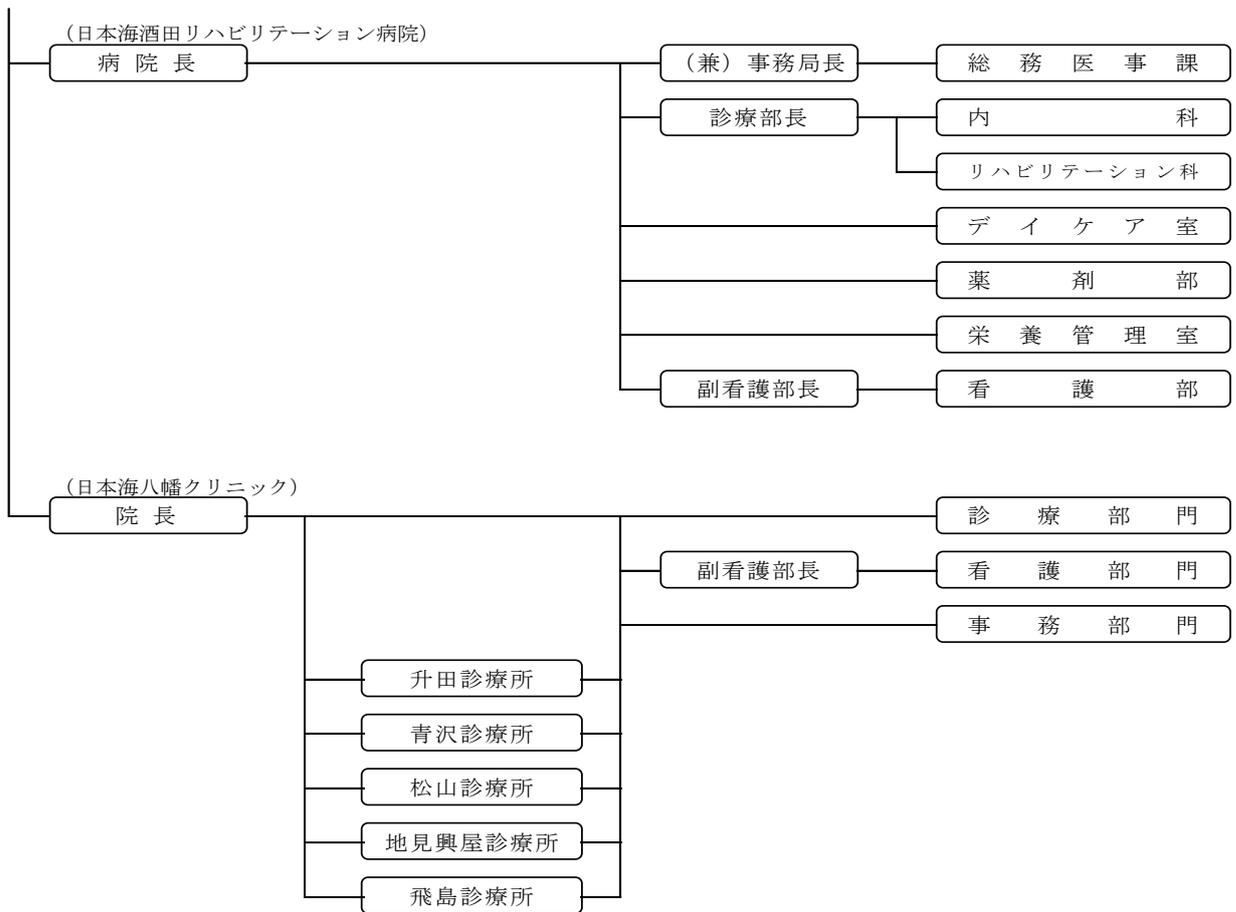
日本海総合病院	酒田市あきほ町 30 番地
日本海酒田リハビリテーション病院	酒田市千石町二丁目 3 番 20 号
日本海八幡クリニック	酒田市小泉字前田 37 番地
升田診療所	酒田市升田字東向 16 番地
青沢診療所	酒田市北青沢字家の前 280 番地
松山診療所	酒田市字西田 8 番地の 1
地見興屋診療所	酒田市地見興屋字前割 9 番地の 1
飛島診療所	酒田市飛島字勝浦甲 66 番地

6 役員（令和2年4月1日現在）

役職	氏名	任期	経歴	備考
理事長	栗谷 義樹	令和2年4月1日 ～ 令和6年3月31日	平成20年4月 日本海総合病院、酒田医療センタ ー病院長 平成28年4月 現職	病院統括医療監
副理事長	島貫 隆夫	令和2年4月1日 ～ 令和6年3月31日	平成26年4月 日本海総合病院院長代理 平成28年4月 現職	日本海総合病院 病院長
理事	鈴木 晃	令和2年4月1日 ～ 令和4年3月31日	平成22年4月 日本海総合病院診療部長 平成26年4月 現職	日本海酒田リハ ビリテーション 病院 病院長
理事	内村 文昭	令和2年4月1日 ～ 令和4年3月31日	平成22年4月 日本海総合病院診療部長 平成26年4月 現職	日本海総合病院 副院長
理事	齊藤 宗一	令和2年4月1日 ～ 令和4年3月31日	平成22年4月 日本海総合病院診療部長 平成26年4月 現職	日本海総合病院 副院長
理事	柿崎 弘	令和2年4月1日 ～ 令和4年3月31日	平成22年4月 日本海総合病院診療部長 平成31年4月 現職	日本海総合病院 副院長
理事	中村 美穂	令和2年4月1日 ～ 令和4年3月31日	平成27年4月 日本海総合病院副看護部長 平成30年4月 現職	日本海総合病院 副院長 (看護部長)
理事	松本 宏	令和2年4月1日 ～ 令和4年3月31日	平成30年4月 山形県庄内総合支庁総務企画部 総務課長 平成31年4月 現職	法人管理部長
監事	齋藤 俊勝	令和2年8月20日 ～ 令和5年度につい ての財務諸表の承 認の日	昭和48年6月 公認会計士齋藤俊勝事務所 代表取締役 平成20年4月 現職	公認会計士
監事	加藤 栄	令和2年8月20日 ～ 令和5年度につい ての財務諸表の承 認の日	平成24年8月 山形海区漁業調整委員会 会長 平成20年4月 現職	弁護士

7 組織（令和2年4月1日現在）





8 資本金の状況（令和3年3月31日現在）

	令和元年度 (令和元年3月31日)	令和2年度 (令和3年3月31日)	増減
資本金合計	19,624,389,029円	19,624,389,029円	0円
山形県出資金	11,527,033,307円	11,527,033,307円	0円
酒田市出資金	8,097,355,722円	8,097,355,722円	0円

9 常勤職員の状況（令和3年3月31日現在）

病院		日本海総合病院			日本海酒田リハビリテーション病院			診療所		
		R01	R02	増減	R01	R02	増減	R01	R02	増減
医師・歯科医師	職員数	152	153	1	3	4	1	2	2	0
	平均年齢	39.7	39.6	△0.1	62	60.5	△0.5	48.5	48.0	△0.5
医療技術員	職員数	161	165	4	49	48	△1	1	1	0
	平均年齢	38.4	38.8	0.4	31.5	32.6	1.1	32.0	33.0	1.0
看護・介護職員	職員数	593	591	△2	53	57	4	8	8	0
	平均年齢	39.0	39.1	0.1	46.6	47.4	0.8	54.4	55.4	1.0
事務職員	職員数	46	48	2	4	4	0	2	2	0
	平均年齢	39.7	39.8	0.1	49.3	42.0	△7.3	50.1	50.5	0.4

スタッフ職員	職員数	34	33	△1	5	4	△1	0	0	0
	平均年齢	47.1	47.8	0.7	49.1	47.3	△1.8	—	—	—
計	職員数	985	990	5	114	117	3	13	13	0
	平均年齢	39.3	39.4	0.1	40.7	41.6	0.9	51.1	51.8	0.7
法人職員	職員数	981	987	6	112	115	3	10	11	1
	平均年齢	39.3	39.4	0.1	40.6	41.5	0.9	53.3	52.9	△0.4
県派遣職員	職員数	3	3	0	0	0	0	0	0	0
	平均年齢	54.8	54.0	△0.8	—	—	—	—	—	—
市派遣職員	職員数	1	0	△1	2	2	0	3	2	△1
	平均年齢	58	—	—	44.1	45.0	0.9	44.1	45.5	1.4

病 院 職種		法人計		
		R01	R02	増減
医師・歯科医師	職員数	157	159	2
	平均年齢	40.3	40.3	0
医療技術員	職員数	210	214	4
	平均年齢	36.7	37.4	0.7
看護・介護職員	職員数	654	656	2
	平均年齢	39.8	40.0	0.2
事務職員	職員数	52	54	2
	平均年齢	40.8	40.3	△0.5
スタッフ職員	職員数	39	37	△2
	平均年齢	47.4	47.7	0.3
計	職員数	1,112	1,120	8
	平均年齢	39.6	39.8	0.2
法人職員	職員数	1,103	1,113	10
	平均年齢	39.5	39.8	0.3
県派遣職員	職員数	3	3	0
	平均年齢	54.8	54.0	△0.8
市派遣職員	職員数	6	4	△2
	平均年齢	46.4	45.3	△1.1

Ⅱ 令和2年度の財務情報

1 財務諸表の要約

(1) 貸借対照表

(百万円)

資産の部	金額	負債の部	金額
固定資産	29,619	固定負債	15,120
有形固定資産	21,104	資産見返負債	638
無形固定資産	521	長期借入金	6,958
投資その他資産	7,994	移行前地方債償還債務	802
流動資産	17,096	長期寄付金債務	9
現金及び預金	10,883	引当金	6,712
有価証券	2,000	流動負債	4,522
未収入金	4,080	一年内返済予定長期借入金	1,172
たな卸資産	113	一年内返済予定移行前地方債償還債務	685
その他	19	未払金及び未払費用	1,997
		預り金	66
		引当金	603
		負債合計	19,642
		純資産の部	金額
		資本金	19,624
		資本剰余金	3,784
		利益剰余金	3,664
		純資産合計	27,073
資産合計	46,715	負債純資産合計	46,715

※計数はそれぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは一致しないものがある。

(2) 損益計算書

(百万円)

科目	金額
営業収益	22,489
営業費用	21,394
営業外収益	1,398
営業外費用	1,186
経常利益	1,307
臨時利益	14
臨時損失	30
当期純利益	1,291
目的積立金取崩額	174
当期総利益	1,465

※計数はそれぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは一致しないものがある。

(3) キャッシュ・フロー計算書 (百万円)

科 目	金 額
I 業務活動によるキャッシュ・フロー	2,415
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 166
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 653
IV 資金増加額	1,597
V 資金期首残高	5,887
VI 資金期末残高	7,483

※計数はそれぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは一致しないものがある。

(4) 行政サービスコスト計算書 (百万円)

科 目	金 額
I 業務費用	1,878
損益計算書上の費用	22,609
自己収入等 (控除)	△ 20,732
II 損益外減価償却相当額	19
III 引当外退職給付増加見積額	△ 32
IV 機会費用	24
V 行政サービスコスト	1,889

※計数はそれぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは一致しないものがある。

2 財務諸表の概要

主要な財務データの前年度比較・分析 (百万円)

区 分	令和元年度	令和2年度	増 減
当期総利益	552	1,465	913
資 産	45,117	46,715	1,598
負 債	19,316	19,642	326
業務活動によるキャッシュ・フロー	2,103	2,415	312
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,532	△ 166	3,366
財務活動によるキャッシュ・フロー	728	△ 653	△ 1,381

(当期総利益)

新型コロナウイルス感染症対策に関連した各種補助金収益の増及び資産見返運営費負担金戻入の計上により、総収益 239 億 1 百万円に対し総費用 226 億 9 百万円で当期純利益は 12 億 91 百万円となった。前中期目標期間繰越積立金から 1 億 74 百万円取崩し当期総利益は 14 億 65 百万円となり、前年比で 9 億 13 百万円増加した。

(資産)

令和2年度末時点の資産合計は、前年比で 1,598 百万円増加した。これは、現金預金などの流動資産が 33 億 61 百万円増、長期性預金などの固定資産が 17 億 63 百万円減となったことが主な要因である。

(負債)

令和2年度末時点の負債合計は、前年比で3億26百万円増加した。これは、未払金などの流動負債が3億14百万円増、資産見返負債などの固定負債が12百万円増となったことが主な要因である。

(業務活動によるキャッシュ・フロー)

令和2年度の業務活動によるキャッシュ・フローは、前年比で3億12百万円の収入増となった。これは、前年度と比較して補助金等収入が6億31百万円増となったことが主な要因である。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

令和2年度の投資活動によるキャッシュ・フローは、前年比で33億66百万円の収入増となった。これは、前年度と比較して有形固定資産の取得による支出が12億88百万円減、有価証券の売却による収入が13億円増、運営費負担金収入が9億27百万円増となったことが主な要因である。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

令和2年度の財務活動によるキャッシュ・フローは、前年比で13億81百万円の収入減となった。これは、前年度と比較して金銭出資の受入による収入が8億27百万円減、長期借入金収入が3億63百万円減となったことが主な要因である。

3 重要な施設等の整備等の状況

- ・Ⅲ－第7－1 (31ページ) 参照

4 予算及び決算の概要

- ・Ⅲ－第3 (27ページ) 参照

5 経費の削減及び効率化に関する目標及びその達成状況

- ・Ⅲ－第2－4 (2) (27ページ) 参照

Ⅲ 令和2年度の事業概要

日本海総合病院、日本海酒田リハビリテーション病院及び日本海八幡クリニック等診療所は、将来にわたり持続可能な経営に向けて努力するとともに、「安心、信頼、高度な医療提供」及び「保健、医療、福祉の地域連携」の基本理念に基づいた医療を提供するため、以下のような取り組みを行った。

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 医療機能の分化・連携の推進

地域医療連携推進法人「日本海ヘルスケアネット」への参画により、引き続き、人工透析の機能分担、地域フォーミュラリ、人事交流、急性期機能の集約化、訪問看護ステーションの在り方の検討等を行い、地域の医療機関及び介護、福祉施設等との連携を強化し、切れ目のないサービスの提供に努めた。

2 持続的・安定的な医療の提供及び医療水準の向上

(1) 高度専門医療・回復期医療等の充実・強化

① 日本海総合病院は、庄内二次医療圏の中核的な医療機関として、ハイブリッド手術室の手術件数が210件（前年度より46件増加）、ロボット支援手術の件数が75件（前年度より21件増加）、放射線治療の件数が5,978件（前年度より544件増加）と高度専門医療の充実などを図るとともに、併せてD P C特定病院群の適用の維持による医療の質の向上を図り、急性期医療及び高度専門医療の適切な提供に取り組んだ。

入退院支援センターの活用や診療情報の共有化などにより、地域の他の医療機関や介護施設と連携し、入院から退院後の在宅や介護施設への移行の円滑化を図り、地域完結型の実現を目指した。

【日本海総合病院の機能】

項目	概要								
許可病床数	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">一般病床</td> <td style="text-align: right;">6 2 6 床</td> </tr> <tr> <td>（うち、救命救急センター</td> <td style="text-align: right;">2 4 床）</td> </tr> <tr> <td>感染症病床</td> <td style="text-align: right;">4 床</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合 計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">6 3 0 床</td> </tr> </table>	一般病床	6 2 6 床	（うち、救命救急センター	2 4 床）	感染症病床	4 床	合 計	6 3 0 床
一般病床	6 2 6 床								
（うち、救命救急センター	2 4 床）								
感染症病床	4 床								
合 計	6 3 0 床								
標榜科 (27診療科)	内科、循環器内科、消化器内科、内視鏡内科、精神科、神経内科、小児科、緩和ケア内科、外科、乳腺外科、小児外科、整形外科、形成外科、リハビリテーション科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科、病理診断科								
診療機能等	<ul style="list-style-type: none"> ・救命救急センター（ICU、HCU） ・PETセンター ・外来化学療法室 ・LDR室（陣痛・分娩・回復室） ・未熟児室 ・認知症疾患医療センター ・特殊診察室及び感染症室（陰圧・陽圧室） ・人工透析室 ・ハイブリッド手術室 ・地域医療支援病院 ・地域がん診療連携拠点病院 ・災害拠点病院 ・へき地医療拠点病院 ・臨床研修病院 <p style="text-align: right;">など</p>								

目標である病床稼働率について、新型コロナウイルス感染症による影響から目標値を下回ってしまったが、新型コロナウイルス感染症患者を考慮しない場合の病床稼働率は80.8%と目標値を上回ることができた。

【目標】日本海総合病院

目標とする指標	目標値	令和2年度実績
病床稼働率	76%以上	73.7%

- ② 日本海酒田リハビリテーション病院は、回復期医療と慢性期医療を担い、回復期医療は、在宅復帰に向けた医療及びADL（日常生活動作）の向上を目的としたリハビリテーションを提供し、慢性期医療では、長期にわたり療養を必要とする患者及び重度障がい者等の受入れを行った。また、回復期医療及び慢性期医療を適切に提供するとともに、併せて通所及び訪問リハビリテーションも提供した。

【日本海酒田リハビリテーション病院の機能】

項目	概要						
許可病床数	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">医療療養型療養病床</td> <td style="text-align: right;">35床</td> </tr> <tr> <td>回復期リハビリテーション病床</td> <td style="text-align: right;">79床</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">合 計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">114床</td> </tr> </table>	医療療養型療養病床	35床	回復期リハビリテーション病床	79床	合 計	114床
医療療養型療養病床	35床						
回復期リハビリテーション病床	79床						
合 計	114床						
標榜科 (2診療科)	内科、リハビリテーション科						
診療機能等	<ul style="list-style-type: none"> ・回復期リハビリテーション ・通所、訪問リハビリテーション ・在宅重症難病患者一時入院機能 ・機能訓練室 ・デイケア室 ・臨床研修病院 <p style="text-align: right;">など</p>						

目標である回復期リハビリテーション実績指数について、目標値を大幅に上回ることができた。

【目標】日本海酒田リハビリテーション病院

目標とする指標	目標値	令和2年度実績
回復期リハビリテーション実績指数	40点以上	47.5点

- ③ 日本海八幡クリニック等診療所は、それぞれの地域における唯一の医療機関として一次医療の提供及び地域住民への訪問看護等を提供した。また、地域の医療需要を考慮した体制でへき地医療を提供した。

日本海八幡クリニックでは、平日延長診療、土曜診療及び訪問診療の実施並びに訪問看護ステーションの運営、また、松山診療所では、4～9月が月・火・水・金曜日の週4日間、10～3月が月～金曜日の週5日間診療を行った。

飛島診療所では、日本海総合病院の医師による出張診療や遠隔診療を行った。

【日本海八幡クリニック】

項目	概要
標榜科（4診療科）	内科、外科、整形外科、リハビリテーション科
診療機能等	<ul style="list-style-type: none"> ・運動器・呼吸器・脳血管疾患等リハビリテーション ・訪問診療、訪問看護（介護保険事業を含む） ・飛島診療所の遠隔診療

升田診療所

項目	概要
標榜科	内科

青沢診療所

項目	概要
標榜科	内科

松山診療所

項目	概要
標榜科（2診療科）	内科、外科
診療機能等	・訪問診療

地見興屋診療所

項目	概要
標榜科（2診療科）	内科、外科

飛島診療所

項目	概要
標榜科（2診療科）	内科、外科

ア 診療体制の充実

（ア）救急医療（日本海総合病院）

庄内二次医療圏で唯一の救命救急センターとして、地域に信頼される救急医療に努め、継続して一般社団法人酒田地区医師会十全堂と連携を図り、夜間救急の診療体制を維持した。

重篤な患者に対する三次救急診療を当院の医師が担い、初期救急医療については一般社団法人酒田地区医師会十全堂からの応援医師が平日夜間救急外来を担当するなど、救命救急センターの機能強化を図り、24時間365日救急医療の提供体制を維持した。

新型コロナウイルス感染症による外出控えの影響か、救急患者数は激減したが、重症者の受診（※帰宅患者以外）の割合は前年度とほぼ同様であったことから、救命救急センターの責務を果たせた。

【実績】救命救急センター延べ患者数

平成30年度	令和元年度	令和2年度
23,164名	22,964名	17,141名

【実績】救急車（※ヘリ含む）による搬送患者数

平成30年度	令和元年度	令和2年度
3,956名	3,643名	3,260名

(イ)がん医療(日本海総合病院)

- ① 地域がん診療連携拠点病院として、手術、放射線治療及び化学療法を効果的に組み合わせた集学的治療を提供した。

【実績】手術、放射線療法、外来化学療法の件数

区 分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
手術	1,173件	1,159件	1,149件
放射線療法	6,594件	5,434件	5,978件
外来化学療法	5,749件	6,252件	7,114件

より適切ながん治療を提供するため、カンサーボードを定期的を開催するとともに、山形大学附属病院から腫瘍内科の医師の招集と多職種による検討を行った。

【実績】カンサーボード回数及び症例数

区分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
回数	23 回	24 回	26 回
症例数	57 症例	59 症例	69 症例

- ② 緩和ケアセンターを中心に早期に適切な緩和ケアを提供するため、緩和ケアスクリーニングを実施し、緩和ケア医療の充実に努めた。

【実績】緩和ケアスクリーニング実施件数

区 分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
入院	3,291 件	3,964 件	3,934 件
外来	449 件	447 件	465 件

国の指針に基づき、医師等に対する緩和ケア研修会を開催し、緩和ケア医療の体制の強化を図った。

【実績】緩和ケア研修会

実施日	受講医師数
令和 2 年 11 月 23 日	119 名

- ③ がん対策の進展に貢献するよう、がん登録者を専従で 1 名配置し、院内がん登録及び地域がん登録を実施した。

【実績】がん登録件数

区 分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
院内がん登録	1,978件	1,858件	1,874件
全国がん登録	2,007件	1,876件	1,885件

がん登録実務者中級者として 1 名が認定試験に合格したことから、2 名体制とし、院内がん登録及び地域がん登録の体制強化を図った。

(ウ)脳卒中・急性心筋梗塞(日本海総合病院)

- ① 急性期医療において内科的・外科的治療を速やかに行い、機能回復のためのリハビリテーションの早期開始に努めた。また、継続して休日のリハビリテーションを提供した。

【実績】疾患別リハビリテーション実施状況

区 分	平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度	
	実患者数	回数	実患者数	回数	実患者数	回数
脳血管疾患	790 名	51,086 回	883 名	48,822 回	733 名	43,815 回
心大血管	772 名	18,487 回	827 名	17,010 回	689 名	14,400 回

【実績】休日のリハビリテーション実施状況

区 分	平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度	
	実患者数	回数	実患者数	回数	実患者数	回数
脳血管疾患	684 名	6,218 回	746 名	6,205 回	630 名	5,650 回
心大血管	603 名	2,046 回	543 名	1,769 回	500 名	1,578 回

- ② 脳梗塞の血栓回収療法等、脳卒中に対する適切な救急医療の提供の体制を整えるため、医師、看護師、臨床工学士等によるブレインチームを立ち上げ、血栓回収療法の提供体制を整えるとともに、適切かつ速やかな治療を提供した。

【実績】血栓回収療法、t-P A実施件数(日本海総合病院)

区 分	平成30年度	令和元年度	令和 2 年度
血栓回収療法	—	—	2 件
t-P A	20件	24件	16件

- ③ 酒田地区広域行政組合消防本部との連携により、12誘導心電図伝送装置を活用し、心筋梗塞等の早期診断に努めた。さらに、令和 2 年12月から鶴岡地区管内にも12誘導心電図伝送装置が配備され、重篤患者の広域搬送及び治療をすることが可能となった。

【実績】12誘導心電図伝送件数

平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
53 件	281 件	271 件

※平成31年2月から運用開始

急性心筋梗塞の救急患者に対して、医師や看護師等が連携し、速やかに集中治療室に転送するとともに、迅速な救命治療を実施した。また、院内においては、心筋梗塞チームの参集の放送を行い、救急搬送直後から迅速に治療にとりかかるシステムの構築がなされている。

【実績】経皮的冠動脈形成術及び経皮的冠動脈ステント留置術

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度
急性心筋梗塞に対するもの	37件	32件	43件

(エ)糖尿病(日本海総合病院)

医師、看護師及び管理栄養士等が協働して、治療又は生活習慣改善のため、糖尿病教室等の患者教育・指導を行った。

【実績】糖尿病教室

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度
開催回数	15回	19回	10回
参加人数	43名	51回	23名

【実績】糖尿病透析予防指導の実患者数、指導回数

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実患者数	6名	5名	6名
指導回数	17回	11名	29回

【実績】教育入院患者数

平成30年度	令和元年度	令和2年度
84名	69名	119名

【実績】個別栄養指導件数

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度
入院	332件	296名	335件
外来	342件	402名	223件
合計	664件	698名	558件

目標である糖尿病教室について、新型コロナウイルス感染症による影響から目標値を下回ってしまったが、糖尿病透析予防指導の実患者数及び指導回数、教育入院患者数は前年度より増加した。

【目標】日本海総合病院

目標とする指標	目標値	令和2年度実績
糖尿病教室	15回以上	10回

(オ)精神疾患(日本海総合病院)

地域の精神科病院等との役割分担及び連携を図りながら、身体合併症患者への診療など総合病院として担うべき精神医療を提供した。

【実績】他の精神科病院から日本海総合病院に紹介等され入院した患者数

平成30年度	令和元年度	令和2年度
59件	53件	45件

(カ)小児・周産期医療(日本海総合病院)

- ① 二次周産期医療機関として、ハイリスク分娩の対応や帝王切開など高度な周産期医療を提供するとともに、他の医療機関から救急搬送された母体搬送及び新生児搬送の受入れを行い、他の医療機関との機能分担及び連携を図った。

【実績】母体・新生児救急受入れ患者数等状況

区 分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
母体	17 名	14 名	10 名
新生児	4 名	3 名	6 名
緊急帝王切開術	38 件	51 件	38 件

- ② 産科及び小児科の専門医の充実した体制により、地域の住民が安心して出産し、かつ子育てができるよう、良質な医療を提供した。

三次医療機関である山形県立中央病院及び鶴岡市立荘内病院と連携を図り、母体・新生児の救急搬送を適切に行った。

【実績】母体・新生児の救急搬送患者数

区 分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
母体	8 名	14 名	12 名
新生児	1 名	2 名	2 名

(キ)回復期リハビリテーション(日本海酒田リハビリテーション病院)

脳血管疾患や大腿骨頸部骨折等により障がいが生じた患者のADL（日常生活動作）を改善し、早期に在宅療養又は社会復帰ができるよう、リハビリテーションを集中的に提供した。

【実績】疾患別リハビリテーション実施状況

区 分	平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度	
	実患者数	回数	実患者数	回数	実患者数	回数
脳血管疾患	230 名	91,890 回	259 名	83,432 回	236 名	87,764 回
運動器	222 名	60,268 回	212 名	53,809 回	200 名	54,944 回

(ク)在宅医療支援及び療養支援

- ① 退院後、在宅療養へ患者が円滑に移行し、切れ目なくサービスを受けることができるよう、入院初期から入退院支援センターの看護師及び医療福祉相談室の社会福祉士が地域の介護・福祉・医療機関との連携を図りながら、患者との退院調整業務を行った。

【実績】入院前スクリーニング実施件数（日本海総合病院）

令和元年度	令和 2 年度
777 名	6,317 名

※入退院支援センター：令和 2 年 2 月 17 日から運用開始

【実績】退院調整件数（日本海総合病院）

区 分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
他病院	996 件	1, 189 件	925 件
在宅	14, 337 件	13, 684 件	12, 426 件
介護老人保健施設	109 件	83 件	95 件
介護老人福祉施設	144 件	189 件	131 件
ショートステイ	87 件	97 件	91 件
有料老人ホーム	246 件	259 件	216 件
その他	98 件	99 件	110 件
合計	16, 017 件	15, 600 件	13, 994 件

- ② 在宅患者が安心して地域で療養できるよう、通所及び訪問リハビリテーションを実施した。

【実績】通所及び訪問リハビリテーション延べ利用者数（日本海酒田リハビリテーション病院）

区 分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
通所リハビリ	3, 871 名	4, 091 名	3, 841 名
訪問リハビリ	—	167 名	229 名

※訪問リハビリテーション：令和元年 7 月から運用開始

在宅医療を行っている診療所等と連携を図り、入院治療が必要となった患者の受入れを適切に行った。

【実績】診療所からの入院受入患者数（日本海酒田リハビリテーション病院）

平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
14 名	9 名	6 名

(ケ) 一次医療とプライマリ・ケアの提供、充実（日本海八幡クリニック等診療所）

診療所が設置されている各地域において、へき地医療等、地域医療の維持、確保を図り、一次医療の提供を行った。また、各診療所においては、総合診療を行うプライマリ・ケアを提供し、必要に応じて高度及び専門医療機関に紹介するなど、連携した医療の提供を行った。

イ 高度医療機器の計画的な更新・整備（日本海総合病院）

高度専門医療等の医療機器の更新にあたっては、起債及び剰余金を活用し、整備計画を策定するとともに、それに従い整備を行った。

高額医療機器について、全身用 X 線 CT 診断装置、脳腹部血管造影撮影装置等、医療機器整備計画及び利用見込み並びに収支予測を行い、計画的に更新・整備を行った。

ウ 災害時や健康危機における医療協力(日本海総合病院)

- ① 新型コロナウイルス感染症の影響から実働訓練等は行うことができなかったが、動画配信による研修を行うなど、災害拠点病院として機能するよう、災害時の対応に備えた。

【実績】災害医療研修及び訓練

実施日	内 容	参加人数
令和2年6月24日 ～令和2年9月30日	(災害医療研修会・動画配信) 災害医療の基礎とトリアージについて学ぶ	773名
毎月5日 (※計12回)	(災害対応訓練) オクレンジャーを活用した緊急連絡・安否確認訓練	1,298名
令和3年1月22日	(災害対応訓練) 災害発生時等に外部との通信手段の習得	7名

災害時に必要な医療物資等について、医療物資等及び食料の備蓄を実施するとともに、燃料等の優先納入契約に関する協定を継続した。

- ② 大規模災害発生時には、県の要請等によるDMAT（災害派遣医療チーム）等の現地派遣要請への備え、各種訓練や研修会に参加し、職員の技能維持等に取り組んだ。

SCU（航空搬送拠点臨時医療施設）の運営協力として、山形県所有のSCU医療用資材について、日本海総合病院で保管と点検等を実施し、緊急時に備えた。

- ③ 地域住民の生命を脅かす新たな感染症や薬物・食中毒等の健康危機事象が発生したときは、関係機関との緊密な連携のもと迅速な対応を行った。

新型コロナウイルス感染症発生により、関係機関と合同訓練や研修を行うことができなかったが、ウェブ会議やメール等を活用して、行政や地域の医療関係者と感染症発生状況等の情報共有を行うとともに、具体的な対応方法について検討を行った。また、前年度に実施した訓練や研修を活かし、関係機関との緊密な連携のもと迅速な対応を行った。

目標である災害等に係る訓練及び研修について、新型コロナウイルス感染症による影響から目標値を下回ってしまったが、訓練や研修を活かし、新型コロナウイルス感染症対策に向け迅速な対応を行った。

【目標】日本海総合病院

目標とする指標	目標値	令和2年度
災害等に係る訓練及び研修	4回以上	3回

エ 政策医療の実施(日本海総合病院)

- ① 第二種感染症指定医療機関として、感染症に迅速かつ的確に対応するため、二類感染症患者を受入れた。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、保健所から受診誘導があった患者の検体採取及び診察を積極的に受け入れるとともに、入院については、新型コロナウイルス

ス感染症患者の専用病棟を確保し、重点医療機関として感染症患者を受入れた。また、外来診療においても、全外来患者を対象に新型コロナウイルス感染症に関する問診の実施、慢性疾患等で定期的に通院している患者に対して電話等による診療及び処方箋の発行を実施した。

区 分	人数等
二類感染症患者入院診療加算延べ算定患者数 (新型コロナウイルス感染症患者除く)	273 名
新型コロナウイルス感染症に係る検体採取延べ人数	986 名
新型コロナウイルス感染症による延べ入院患者数	772 名
電話等による診療及び処方箋の発行件数	924 件

- ② 認知症疾患医療センターとして、認知症患者の状況等に応じた専門医療相談、鑑別診断等を実施した。

【実績】 認知症疾患医療センター相談件数

区 分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
新規相談件数	478 件	472 件	315 件
継続相談件数	293 件	225 件	218 件

- ③ 精神疾患及び身体合併症を伴う精神疾患患者に対する精神医療提供体制の充実のための精神病床設置について、新型コロナウイルス感染症の動向等を鑑み、検討を保留することとした。

- ④ 脳死下臓器移植について、提供施設として山形県臓器移植推進機構の協力を得ながら、院内コーディネーター及び関係部門による臓器提供の一連の流れについてのシミュレーション等を実施した。

【実績】 臓器移植研修会

実施日	内 容	参加人数
令和 3 年 3 月 2 日	法的脳死判定より ①事前準備 ②脳波測定 ③脳幹反射の動画視聴	37 名
令和 3 年 3 月 15 日	「法的脳死判定～脳波測定、脳幹反射」シナリオの読み合わせと流れの検証	21 名

目標である脳死判定シミュレーション等臓器提供に係る研修について、目標値を上回る事ができた。

【目標】 日本海総合病院

目標とする指標	目標値	令和 2 年度実績
脳死判定シミュレーション等臓器提供に係る研修	1 回以上	2 回

(2) 医療スタッフの確保及び資質向上

ア 医療人材の確保・育成

- ① 高度専門医療等の安定的な提供を図るため、医師、薬剤師、看護師のほか医療職7職種の募集、職員採用試験を計画的に実施し、医療従事者の適切な人員確保に努めた。

【実績】採用者人数（令和2年度採用試験）

区 分	人数
初期臨床研修医・歯科医師初期研修医	12名
薬剤師	2名
看護師	27名
診療放射線技師	3名
臨床検査技師	1名
理学療法士	1名
作業療法士	1名
言語聴覚士	1名
臨床工学技士	1名
社会福祉士	1名
計	50名

- ② 医師の働き方改革の動向を踏まえ、特定行為管理委員会において、看護師の特定行為研修修了者を積極的に活用するなど、環境の整備を図った。
- ③ 専門医制度の基幹病院として、研修実施可能な3診療科（内科、外科、産婦人科）の専門研修プログラムに基づき管理運営を行うなど、初期臨床研修医及び専攻医を積極的に受入れ、医師の確保に努めた。

【実績】臨床研修医及び専攻医（レジデント）受入れ人数

平成30年度	令和元年度	令和2年度
62名	67名	68名

※内訳：臨床研修医 28名、専攻医（レジデント） 40名

- ④ 教育・研修体制の充実及び自己研鑽・研究のサポート体制の充実に努め、各職種の専門性の向上を図るため、e-ラーニングを利用した役職別研修や各部門独自での専門能力を高める研修を実施した。
- ⑤ 看護師及び助産師を育成・確保するため、看護師等修学資金貸与を継続して行い、新規貸与者6名を含む計14名に修学資金の貸与を実施し、貸与終了者2名が当機構職員として入職した。

【実績】看護師等修学資金の貸与

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度
貸与者	17名	16名	14名
入職者	6名	8名	2名

- ⑥ 看護師の資質向上のため、認定看護師の新規取得のほか、新たに看護師の特定行為研修修了者が大幅に増加した。

【目標】 法人全体

目標とする指標	目標値	令和2年度実績
特定行為研修修了者、専門看護師資格の新規取得者数又は認定看護師の新規取得者数	期間中5名以上	4名
特定行為研修修了者	期間中4名以上	3名

イ 事務職員の確保と専門性の向上

病院運営の高度化・複雑化に対応できる組織を作るため、4名の事務職員を採用し、各課へ配置することで、他業務、他職種との連携体制を構築した。

オンラインによる研修会や新規採用事務職員研修を実施し、病院の運営方針や経営状況等を学ぶことを通して専門性と資質の向上に努めた。

医師、認定遺伝カウンセラーの業務負担を軽減することを目的とした遺伝性腫瘍コーディネーターに、事務職員1名の取得希望があり、取得に要する研修会等への支援を行った。

ウ 職員の勤務環境の改善

- ① 職員が健康を維持し、また、業務に専念できるよう定期健康診断を実施し、受診率が99.9%とほぼすべての職員が健康診断を受診した。

ストレスチェックでは、高ストレス者に対して産業医による面接指導の受診勧奨を行い、希望者4名に面接を実施し対策の充実を図った。

- ② 介護や子育て等、家庭環境に配慮した支援及び医師のキャリアパスに配慮した医師短時間正職員制度や育児部分休業等の制度の活用を推進し、さらに院内保育所の24時間対応や病児・病後児保育の継続など、働きやすい環境づくりを進め、職員のワーク・ライフ・バランスの向上に努めた。

【実績】 医師短時間職員制度等の利用状況

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度
医師短時間	3名	3名	2名
育児部分休業	1名	1名	0名
育児時間	0名	2名	5名
ベビーシッター等助成金	2名	2名	1名
ハウスクリーニング等助成金	0名	2名	3名
屋外清掃作業助成金	0名	0名	1名

- ③ 病棟及び外来に医師事務作業補助者（医事クラーク）や看護補助者を配置し、医師をはじめとする医療従事者の負担軽減を図るとともに、効率的な業務遂行に努めた。

看護補助者については、常勤換算で7.2名分増員し、医療従事者へのさらなる負担軽減に努めた。

【実績】医事クラークの配置数

平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
66 名	69 名	68 名

(3) 医療サービスの効果的な提供

ア 地域連携の推進

- ① 地域医療構想の実現及び地域包括ケアシステムの構築に向けて、地域医療連携推進法人「日本海ヘルスケアネット」への参画により、引き続き、人工透析の機能分担、地域フォーミュラリ、人事交流、急性期機能の集約化、訪問看護ステーションの在り方の検討等を行い、地域の医療機関及び介護、福祉施設等との連携を強化し、切れ目のないサービスの提供に努めた。

地域医療情報ネットワーク「ちようかいネット」をはじめとしたICTの活用などにより、地域及び医療圏を超えた広域的な医療連携の推進を図るため、秋田県医師会と協定を締結し、「あきたハートフルネット」との診療情報の相互連携が可能となった。

- ② 地域の医療サービスを効果的に提供するため、連携協力医登録制度の活用などにより、かかりつけ医への紹介等連携を図った。

目標である紹介率及び逆紹介率について、目標値を大幅に上回ることができた。

【目標】日本海総合病院

目標とする指標	目標値	令和 2 年度実績
紹介率	55%以上	70.3%
逆紹介率	75%以上	105.4%

イ 診療情報の共有化、地域連携クリティカルパスの活用

- ① 地域医療情報ネットワーク「ちようかいネット」の拡大や活用促進に主体的に取り組み、他の医療機関や薬局、介護・福祉施設等との診療情報の共有化の推進を図ったことから、前年度と比べ登録患者が 5,548 名増加した。

【実績】登録患者数等

区分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
登録患者数	37,981 名	43,789 名	49,337 施設
開示施設数	7 施設	8 施設	8 施設
閲覧施設数	198 施設	238 施設	234 施設

- ② 効率的で適切な医療を提供するため、患者への負担軽減及び他の医療機関との機能分担を図りながら、地域連携クリティカルパスを継続して活用と推進を行った。

【実績】地域連携クリティカルパス適用件数

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度
大腸がん	18件	7件	18件
乳がん	8件	13件	22件
胃がん	13件	13件	11件
大腿骨頸部骨折	117件	120件	100件
脳卒中	159件	218件	179件
心臓リハビリ	150件	169件	99件
前立腺がん	32件	9件	4件

(4) 教育研修事業の充実

ア 庄内地域における医療水準の向上(日本海総合病院)

- ① 庄内地域における医療水準の向上に寄与するため、臨床研修医及びレジデントの受入れ並びに山形大学からのスチューデントドクター及び東北大学からの臨床医学修練生を継続して受入れを行い、質の高い医療従事者の育成に努めた。

【実績】臨床研修医等の受入れ状況

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度
臨床研修医	29名	31名	28名
レジデント	33名	36名	40名
スチューデントドクター(山形大学)	85名	85名	45名
臨床医学修練生(東北大学)	2名	1名	3名
地域医療実習生(東北大学)	0名	0名	0名

酒田市立酒田看護専門学校の実習施設として、看護師1名を専任教員養成講習会に参加させ、看護師の育成の技能向上等に努めた。

- ② 救急救命士の技能向上等が図れるよう、救急救命士養成課程の就業前研修、再教育実習、山形県消防学校救急科の病院実習を実施し、計44名の実習生の受入れを行った。

【実績】実習生受入人数

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度
臨床実習	3名	2名	0名
就業前研修	1名	3名	1名
再教育実習	38名	37名	33名
病院実習	10名	5名	10名
計	52名	47名	44名

イ 住民意識の啓発活動(日本海総合病院)

住民の健康意識の向上のため、関係機関と連携し、地域住民を対象とした市民公開講座を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響から令和3年度へ延期することとなった。

病院広報誌「あきほ」の活用等を通して、医療や健康に関する情報を発信し、啓発活動に努めた。

3 患者・住民の満足度の向上

① 来院者の意見等を取り入れ、院内環境等の快適性の向上、受付から会計までの在院時間の短縮等改善を図るため、医療福祉相談室に逆紹介サポート窓口を設置し、医師に代わって社会福祉士が患者と面談を行い逆紹介の説明をする体制を構築することで、医師が診察に専念できる環境を整備するとともに、外来患者の在院時間の短縮に努めた。

入退院支援センターの活用により、入院から退院まで包括的にサポートできる体制の整備を行った。

【実績】入退院支援加算（入院時支援加算有り）算定件数

令和元年度	令和2年度
262 件	2,317 件

※入退院支援センター：令和2年2月17日から運用開始

② ウェブサイト及び広報誌等を通じ、それぞれの病院や診療所の役割等に関する情報を分かりやすく提供するため、ホームページでの病院情報の発信や病院広報誌「あきほ」の発行により、県民に分かりやすく、かつ幅広い情報発信を行った。

目標である病院広報誌発行回数について、目標値どおり発行することができた。

【目標】法人全体

目標とする指標	目標値	令和2年度実績
病院広報誌発行回数	4 回	4 回

4 法令等の遵守と情報公開の推進

① 職員研修において、法令及び倫理綱領並びに業務執行等におけるコンプライアンスの内容を周知するとともに、法令遵守、職務遂行を就業規則に規定し院内イントラネットで常時周知するなど、職員に対して周知徹底に取り組んだ。

② 医療情報の開示について、山形県情報公開条例及び山形県個人情報保護条例に基づき、県の機関に準じて適切に行った。

【実績】診療情報提供申出件数（日本海総合病院）

平成30年度	令和元年度	令和2年度
61 件	40 件	43 件

文書管理についても、山形県公文書等管理条例に基づき、県の機関に準じて保存・廃棄等適切に対応した。

- ③ 適切な情報管理や情報セキュリティ対策の強化を図るため、地域医療情報ネットワーク「ちようかいネット」に新規参加する介護事業者及び新たに利用開始するユーザーに対し、セキュリティ研修会を実施した。

【実績】ちようかいネットセキュリティ研修会実施状況

対象者	参加状況
新規に参加した介護事業者等	13名

5 医療安全対策の充実・強化

住民に信頼される安全で安心な医療を提供するため、医療安全対策及び院内感染対策に関する研修を行い、診療プロセス全体におけるリスクマネジメントの強化を図った。

【実績】医療安全研修会（日本海総合病院）

開催日	研修内容等	参加人数
令和2年10月13日	第1回医療安全全体研修会 診療用放射線の安全利用に関する研修会 診療部 放射線科副医長 高梨 悠 氏 放射線部 主任診療放射線技師 佐藤 公彦 氏 放射線部 主任診療放射線技師 後藤 直樹 氏 放射線部 主任診療放射線技師 山村 修平 氏	114名
平成2年12月3日	第2回医療安全全体研修会 安全な医療機器の使用について ～植込みデバイスの取扱い～ ME室 主任臨床工学技士 白幡 貢 氏 ME室 主任臨床工学技士 伊藤 純 氏	102名

【実績】院内感染対策研修会（日本海総合病院）

開催日	研修内容等	参加人数
令和2年12月14日 ～令和3年1月13日	第1回院内感染対策研修会・動画配信 講演1 COVID-19 診療部 呼吸器内科 阿部 航也 氏 講演2 ASTとAMRについて 薬剤部 薬剤専門員 五十嵐 徹 氏	1,065名
令和3年2月25日 ～令和3年3月24日	第2回院内感染対策研修会・動画配信 講演1 新型コロナウイルス感染症に関する感染対策 看護部 感染管理認定看護師 高橋 美喜 氏 講演2 外来における内服抗菌薬について 薬剤部 薬剤専門員 五十嵐 徹 氏	1,002名

【実績】医療安全研修会（日本海酒田リハビリテーション病院）

開催日	研修内容等	参加人数
令和2年8月20日 25日	第1回医療安全研修会・オンデマンド配信 現場でできるヒューマンエラー対策	102名
令和3年3月29日	第2回医療安全研修会 ワクチン接種について 薬剤部 薬剤専門員 阿部 桂子 氏	87名

【実績】院内感染対策研修会（日本海酒田リハビリテーション病院）

開催日	研修内容等	参加人数
令和2年7月1日 8日	第1回院内感染対策研修会・オンデマンド配信 新型コロナウイルス感染症が変えた医療現場	102名
令和2年10月13日 20日 11月4日	第2回院内感染対策研修会・オンデマンド配信 新型コロナウイルス感染症の現状と予防について	107名

目標である医療安全対策及び院内感染対策に係る研修について、目標値どおり実施することができた。

【目標】日本海総合病院、日本海酒田リハビリテーション病院

目標とする指標	目標値	令和2年度実績	
医療安全対策及び院内感染対策に係る研修	4回以上	日本海総合病院	4回
		日本酒田リハビリ病院	4回

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 組織マネジメントの強化、災害発生時の業務継続性の確保

- ① 運営委員会、診療部代表者会議、業務改善委員会、経営会議等を定期的に開催し、内部統制の推進を図った。

自律性のある効率的な業務運営を行うため、内部による医療費未収金集金業務及び委託契約・物件購入等の履行状況に係る会計監査を実施した。

目標である内部監査について、目標値どおり実施することができた。

【目標】法人全体

目標とする指標	目標値	令和2年度
内部監査	2項目以上	2項目

- ② 災害発生時等において、非常時の業務マネジメント体制を整備しておくとともに、BCP（業務継続計画）に基づき業務の継続性を確保できるよう、災害対策マニュアルの見直しを行った。

2 診療体制の強化、人員配置の弾力的運用

医療需要の変化に迅速かつ的確に対応するため、定期的な人事異動により適材適所の配置に努めるとともに、診療体制の適正化を図った。

医師短時間正職員制度を利用することで、医師がキャリアを中断することなく安心して意欲的に勤務できるよう努めるなど、多様な勤務形態の活用を図った。

TQMセンターを組織化し、医療安全部門、感染対策部門、診療記録管理部門などに専門性の高い職員を配置することで、効率的な業務運営を図った。

3 業務の効率化、職員の意欲向上

- ① 各種委員会等において、業務プロセスの見直しや課題等への対応を適切に行い、業務の効率化に努めた。

【実績】業務改善委員会（日本海総合病院）

区 分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
新規提案	36 件	36 件	23 件
終了	28 件	29 件	16 件

各業務において、連携、機能分化の推進に努め、業務負担軽減に繋がるようタスクシフティングの推進等について検討を行い、麻酔アシスタント制度を立ち上げるとともに、アシスタントとして1名を育成しタスクシフトに繋いだ。

- ② 職員の能力や経験等を適切に評価し、昇任等に反映することで意欲向上を図るとともに、将来の病院経営を担う人材を育成するため、医療職 87 名、事務職 4 名を昇任させ、リーダーシップを発揮できる人材の育成に努めた。

4 経営基盤の安定化

(1) 収入の確保

- ① 診療報酬改定等をはじめ各種制度の変化に迅速に対応するため、施設基準の取得や見直しを行い、新たに施設基準を取得し増収を図った。

DPC係数等に対する分析及び評価を適切に行い、日本海総合病院ではDPC特定病院群の適用を維持し収益の確保を図るため、経営会議にて要件の確認及び報告、院内の関係部署との連携、データ解析や運用改善を行った。

区 分	金 額
新規施設基準取得による増収額	221, 326, 000 円

目標であるDPC特定病院群の維持について、目標値どおり適用することができた。

【目標】法人全体

目標とする指標	目標値	令和 2 年度実績
DPC特定病院群適用	期間中継続	適用

② 退院時会計の推進等により、即日発行された入院会計書（※平日のみ）のうち月平均件数の62.7%が当日中に回収された。また、ソーシャルワーカーの介入等により各種公的制度の活用を図り、未収金の発生防止に努めた。

未収金が発生した際は、督促・催告状の発行に加え分納納入や集金の対応、弁護士法人への委託によって、早期回収に努めた。

(2) 費用の抑制

医療を取り巻く環境の変化や患者動向に対応し、給与水準や職員配置の適正化、業務の委託等により人件費の適正化に努め、材料費についても、収益の状況を把握しながら費用削減に努めた。また、医薬品については、地域フォーミュラリの推進を図り、後発医薬品の使用促進に努めた。

【実績】費用に係る比率

区 分	職員給与費	材料費	
			うち薬品費
日本海総合病院 (法人管理部を含む。)	43.4%	28.7%	16.3%
日本海酒田リハビリ病院	77.3%	1.8%	0.8%
日本海八幡クリニック等診療所	54.5%	11.1%	9.8%
病院機構全体	45.4%	27.0%	15.4%

目標である後発医薬品数量シェア率について、日本海総合病院、日本海酒田リハビリテーション病院とも目標値を上回ることができた。

【目標】日本海総合病院、日本海酒田リハビリテーション病院

目標とする指標	目標値	令和2年度実績	
後発医薬品数量シェア率	80%以上	日本海総合病院	90%
		日本海酒田リハビリ病院	89%

第3 予算（人件費の見積りを含む。）、収支及び資金計画

効率的かつ効果的な経営を持続するため、運営委員会や経営会議等において、各職員へ経営状況の情報共有等を図った。

適切な資金計画に基づき、法人全体の資金収支の均衡や短期借入金の抑制を図った。

目標である経常収支比率及び営業収支比率の目標値を上回ることができた。

【目標】法人全体

目標とする指標	目標値	令和2年度実績
経常収支比率	100%以上	105.8%
営業収支比率	100%以上	105.1%

別表 1 予算及び決算

(単位：百万円)

区分	予算額 (当初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
収入	24,556	25,499	943
営業収益	21,411	22,116	705
医業収入	20,795	20,687	△108
運営費負担金	616	1,429	813
営業外収益	1,181	1,401	220
運営費負担金等	957	98	△859
その他	224	1,303	1,079
資本収入	1,954	1,967	13
運営費負担金等	0	927	927
金銭出資の受入	927	0	△927
補助金	0	58	58
長期借入金	1,026	983	△43
その他	1	0	△1
その他の収入	10	14	4

(単位：百万円)

区分	予算額 (当初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
支出	23,562	23,371	△191
営業費用	20,245	20,384	139
医業費用	20,053	20,199	146
給与費	10,359	9,896	△463
材料費	6,099	6,717	618
経費	3,463	3,536	73
研究研修費	132	50	△82
一般管理費	192	186	△6
営業外費用	207	195	△12
資本支出	3,109	2,791	△318
建設改良費	1,465	1,147	△318
長期借入金返還金	1,635	1,635	0
修学資金貸付	9	8	△1
その他の費用	1	1	0

※項目毎に端数処理をしているため、合計額が一致しない項目がある。

別表2 収支計画

(単位：百万円)

区 分	予算額 (当初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
収 入	22,559	23,901	1,342
営業収益	21,381	22,489	1,108
医業収益	20,756	20,645	△111
運営費負担金収益	616	1,429	813
資産見返運営費負担金戻入	9	415	406
営業外収益	1,169	1,398	229
運営費負担金収益	957	98	△859
その他医業外収益	212	1,300	1,088
その他の収入	9	14	5
支 出	22,517	22,610	93
営業費用	21,302	21,394	92
医業費用	21,126	21,224	98
一般管理費	176	170	△6
営業外費用	1,171	1,186	15
その他の費用	44	30	△14
純 利 益	42	1,291	1,249

別表3 資金計画

(単位：百万円)

区 分	予算額 (当初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
資金収入	37,409	35,797	△1,612
業務活動による収入	22,603	22,882	279
診療業務による収入	20,795	20,588	△207
運営費負担金による収入	1,573	1,517	△56
補助金等収入	69	698	629
その他の業務活動による収入	166	79	△87
投資活動による収入	6,601	6,045	△556
有価証券の売却による収入	4,600	3,800	△800
運営費負担金による収入	0	927	927
補助金等収入	0	15	15
定期預金の払出による収入	2,000	1,300	△700
奨学金の返還による収入	1	2	1
その他の投資活動による収入	0	1	1
財務活動による収入	1,953	983	△970
長期借入による収入	1,026	983	△43
金銭出資の受入による収入	927	0	△927
前年度からの繰越金	6,252	5,887	△365
資金支出	30,163	28,314	△1,849
業務活動による支出	20,452	20,467	15
給与費支出	10,439	10,060	△379
材料費支出	6,099	6,577	478
その他の業務活動による支出	3,914	3,830	△84
投資活動による支出	8,075	6,211	△1,864
有形固定資産の取得による支出	1,465	1,098	△367
無形固定資産の取得による支出	0	9	9
有価証券の取得による支出	5,600	1,995	△3,605
定期預金の預入による支出	1,000	3,100	2,100
奨学金の貸付による支出	9	8	△1
その他の投資活動による支出	1	1	0
財務活動による支出	1,636	1,636	0
長期借入の返済による支出	980	980	0
移行前地方債償還債務等の 償還による支出	656	656	0
翌年度への繰越金	7,246	7,483	237

第4 短期借入金の限度額

短期借入金の実績なし

第5 剰余金の使途

決算剰余金については、建設改良積立金に充当し、将来の施設整備及び医療機器の整備に備えた。

第6 料金に関する事項

1 使用料及び手数料

(1) 法令等に基づき算定する使用料及び手数料

料金の額は、計画に記載の基準等の規定により算定した額を徴収した。

(2) その他の使用料及び手数料

計画に記載の契約等による額とした。

2 使用料及び手数料の減免

該当なし

第7 その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項

1 医療機器・施設整備に関する事項

① 医療機器については、費用対効果、地域の医療需要、他機関との機能分担、医療技術の進展等総合的に判断し、デジタルX線TVシステム、救急一般撮影装置の更新や内視鏡手術器具、胸腔鏡手術器具等を整備し、適切な医療の確保に努めた。

② 施設整備について、中長期計画に従い、緊急度が高い設備の修繕工事を行った。

【実績】主な修繕工事

工事名	契約額（千円）	概要
パッケージエアコン更新工事（4台）	36,080	耐用年数の超過
ファンコイルユニット更新工事（63台）	31,790	耐用年数の超過
空調機ユニット更新工事（2基）	18,480	耐用年数の超過
空調自動制御装置更新工事（191台）	88,000	耐用年数の超過
垂直搬送設備更新工事（水平部分）	22,770	耐用年数の超過

日本海八幡クリニック等診療所での医療機器・施設整備等はなかった。

③ 地域の医療ニーズに対応するため、新型コロナウイルス感染症における重点医療機関として積極的な感染症患者の受入れと院内感染防止を図り、新型コロナウイルス感染症患者の専用病棟を設置し、診療提供体制等の整備を行った。

④ 高額な医療機器・施設整備の更新及び整備について、償還等の負担を十分に考慮し、中長期的な整備計画のもとに行い、計画どおりの更新・整備が実施できた。

【医療機器・施設整備の計画】 (単位：百万円)

区 分	実 績	財 源
資本支出		
建設改良費	1,043	設立団体からの 長期借入金等
施設整備	239	
医療機器等	804	

2 積立金の使途

前中期目標期間の繰越積立金については、施設の整備・修繕、医療機器の購入等に充てた。

3 その他法人の業務運営に関する事項

① 酒田市、公益財団法人やまがた健康推進機構及び診療所等との連携により、がん検診をはじめ地域の検診体制の充実を図った。

酒田市が実施している「内視鏡ドック」のうち、胸部CT検査、上部内視鏡検査、下部内視鏡検査を担い、また、当院での「PET/CT検診」を行うことで、検診体制の充実を図った。

【実績】 検診等

区 分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
内視鏡ドック	97 件	93 件	80 件
PET/CT検診	89 件	47 件	53 件

酒田市へのふるさと納税の返礼品として、納税額に応じた3種類の人間ドックを実施しているが、新型コロナウイルス感染症による影響もあり、申込者がいなかった。

【実績】 ふるさと納税

区 分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
1泊2日（ドック）	0 件	1 件	0 件
2泊3日（ドック、PET）	0 件	0 件	0 件
PET/CT（半日）	2 件	2 件	0 件

② 病児・病後児保育事業を酒田市から受託し、「庄内北部定住自立圏形成協定」により、酒田市以外に三川町、庄内町及び遊佐町に在住の乳幼児等も受入れる体制を整え、日曜日、祝日、年末年始休業(12/29～1/3)を除き、継続して通年で事業を実施した。

【実績】 病児・病後児保育次号延べ利用者数

区 分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
利用者数	251 名	395 名	292 名
うち職員利用者数	92 名	95 名	153 名

受診付添サービス等について、定員9名とし、当日予約の受入れや事前に医療機関の診察を受けていない利用者の受診付添いサービス及び保育園等からの病児送迎サービスを実施した。

【実績】受診付添サービス等利用者

区 分	令和元年度	令和2年度
受診付添サービス	6名	3名
病児送迎サービス	2名	2名

※令和元年4月から運用開始